

令和3年度 静岡型MaaS基幹事業実証実験

中山間地にて「地域の資源を総動員した誰にでも使いやすい交通運行実験」を実施し生活支援サービスとの連携による地域住民の活動増進とコミュニティ形成を目指す。また、市街地にて「静鉄電車沿線の活性化及び運賃収入回復・混雑平準化に向けたOne to oneクーポン配布実験」を実施し、まちなかでの賑わい増進、鉄道利用回復、混雑平準化を狙う。以上の取り組みを通じて、地方移住の推進に向けた移動サービスの持続性と利便性の両立を目指す。

協議会の 構成員	【幹事】静岡鉄道(株)、静岡市、商業組合静岡県タクシー協会、富士山清水港クルーズ(株)、静岡市社会福祉協議会、静岡商工会議所、(公財)するが企画観光局、(株)静岡銀行	
地域 課題	● 中山間地部：地域コミュニティの維持・強化、高齢者の移動手段確保・外出機会の創出、デジタル社会に対応できる環境の構築、地域の持続に資する交流促進・関係人口の増加、地域公共交通の再編の推進 ● 市街地部：都心と駅周辺商店街等への来訪促進・賑わいの創出、鉄道の利用回復と混雑平準化	
事業 概要	サービス 開始時期	2021年11月
	エリア	静岡県静岡市玉川地区（中山間地部） および静鉄電車沿線地域
	MaaS システム	EMot（小田急電鉄(株)）を利用
	交通 サービス	【中山間地部】 ● 地域住民参加型の無償AIオンデマンド交通運行（地域住民によるドライバー、遊休福祉車両活用） ● タブレットを活用し、デジタル機器に馴染みがない人でも簡単にAIオンデマンド交通を予約できる機能
	交通以外 のサービス	【中山間地部】 ● 生活支援サービス（スマートグラスを活用した遠隔買い物支援等）や来訪者等向けのコンテンツ（縁側カフェ等の地域イベント等）の創出と交通サービスの連携 【市街地部】 ● 鉄道利用時間帯や個人特性に応じたクーポン配付（因果推論AIの活用）
事業 目的	● 中山間地部：地域住民の活動増進と共にデジタルデバイドの解消を狙う。また取得したデータを、持続可能な中山間地の地域交通のモデル検討に活用し、今後の他地域への展開、交通再編を図るほか、デジタル技術を活用した中山間地における住環境改善につなげていく。 ● 市街地部：まちなかでの店舗利用増加、鉄道利用増加、鉄道利用時間帯の変更等の行動変容を狙う。	

取組イメージ	
MaaSを通じて提供するサービスのイメージ  ● 地域住民を運転手とし、地域在在の福祉車両を活用した地元参加型の無償AIオンデマンド運行 ● スマホ・タブレット・電話等で簡単に予約できる ● 生活支援サービス等のコンテンツの創出と移動サービスの連携 ● ビーコン受信やLuLuCaカードリーダーへのタッチで、予め登録しておいたLINEにクーポン配布 ● アルゴリズム（因果推論AI）に基づいた処理を行い、混雑時間帯や個人の属性に応じた商業クーポンを配布	
評価指標	
【中山間地部】	【市街地部】
● 外出機会の増加割合 5%（利用者アンケートで把握） ● コールセンター以外の予約割合 50%（AIオンデマンドシステムより把握）	● 鉄道利用への転換割合 5% ● 朝ピークにおいて早い時間に通勤するようになった人の増加割合 5%（いずれもLuLuCaカードより鉄道利用を把握）
今後の方向性	
● 実験結果等も踏まえながら、地域住民とワークショップ等によるコミュニケーションを図りながら、新たな移動サービスの構築に向けて継続して取り組んでいく。 ● 実験で収集したAIオンデマンドの利用データ等を基に、中山間地における地域交通のモデルを検討し、そのモデルを他の中山間地域に順次展開していくことで、運行非効率な路線バス網の再編に継承し、静岡市公共交通の最適化を目指す。	